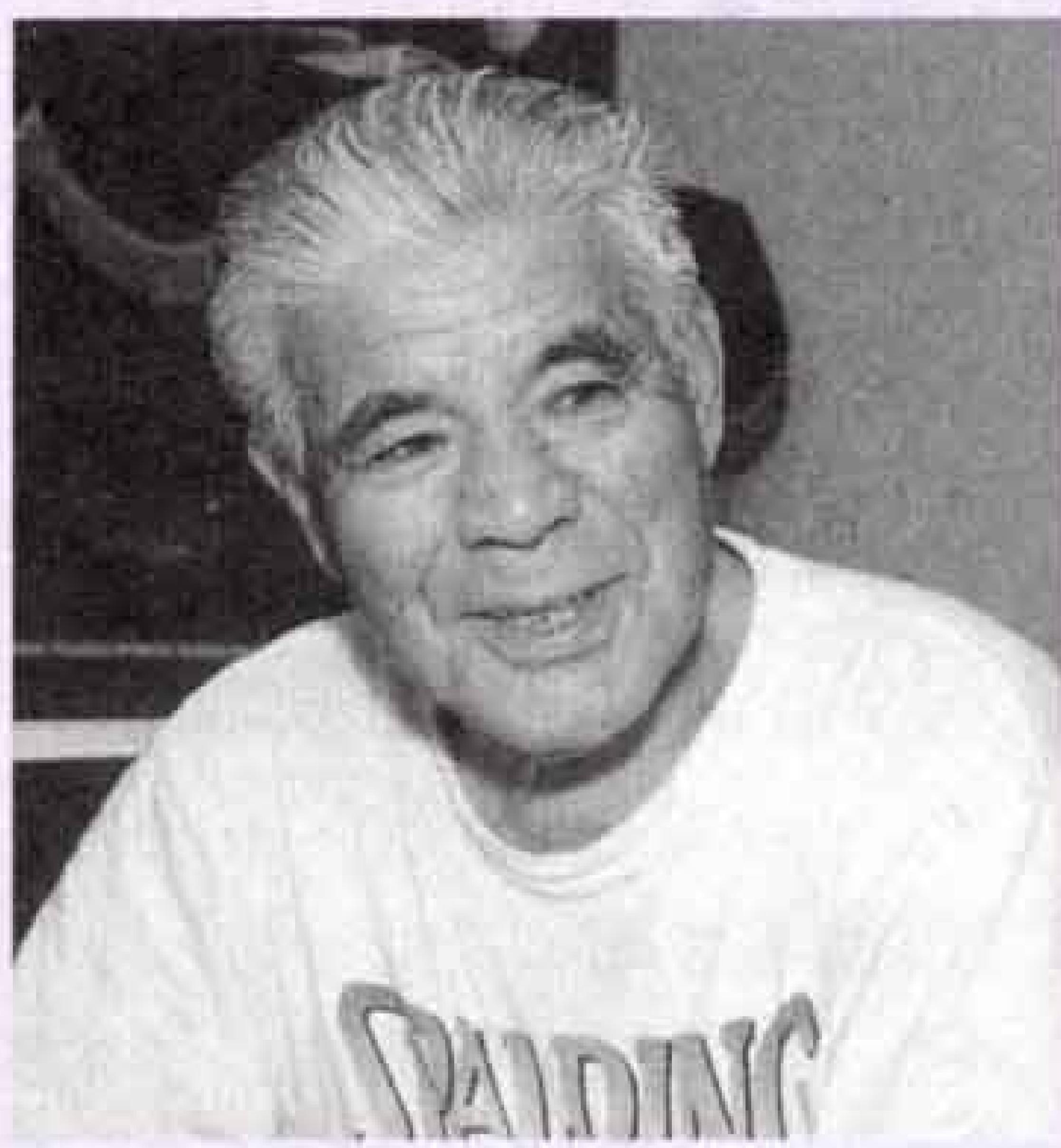


▲天白神社

今では米粒は残っていませんが、昔からこの地域ではお米がとれたということから、この話が伝えられているのでしょうか。

天白池の水は、昔飲み水として利用されていたようです。水はいつか乾き、池は杉林にかわってしまったようですが、杉林によく牛がつながっていたのを覚えています。

また、昭和七年までは境内に飛行機松といって、富士山の頂上からも見えるほどの大きな松が一本ありました。樹齢千年を超す松だったのですが、本殿を修復するのに木を切ってしまったところ、突然枝が折れてしまったのです。



柚木にお住まいの
小中 良一さん

とても不思議なことでしたね。

私が子供のころは、学校の行き帰りにみんなで神社に寄つてよく遊びましたね。地域の人たちもよく集まつてきてにぎやかでした。今でも毎年十月十七日前後の土曜日または日曜日に、盛大にお祭りを行っています。

柚木の お天白さん

富士の民話 あれこれ

富士駅北地区の柚木に天白神社があります。地域の人たちからは「お天白さん」と呼ばれています。

今回は、この柚木の「お天白さん」についてご紹介します。

村の人たちは、「不思議なことがあるもんだ。きっと、この土地はお米の神様と関係があるに違いない」と米粒の一つを祭つて、天白神社と名づけた社を建てたそうです。そして、残りの米粒は、米之宮浅間神社と出雲大社に奉納したということです。

また、天白神社の横には、昔、大きな池があつて、人々は「天白池」と呼んでいました。この付近にひでりが続くと、村の人たちは、この池で雨ごいのお祭りを行いました。すると急に天空に黒雲がわいて、雨が降ってきたということです。天白神社は、お米の神様を祭っているということから、ひでりで作物がとれないと、百姓たちがかわいそうだというので、神様が雨を降らせたのでしょう。



こちら編集室

12月にロゼシアターで、私が在籍しているオーケストラが、市民合唱団やソリストの皆さんと一緒に「第九」を演奏します。私の担当する楽器は当日ステージに出る人の中で一番出番が少ない楽器。でも、不思議なことに、出番の多さと緊張の度合いは必ずしも合

ないものです。ところで、「第九」というと年末に流れる曲の代名詞。そのせいか、練習ではこの夏の暑さをしばし忘れさせてくれました。この秋、いよいよ練習が佳境に入ります。合唱団の皆さんとの合わせや本番の演奏会が待ち遠しいこのごろです。

人口 238,262人 (前月比+199)

男 118,614人 (+96)

女 119,648人 (+103)

世帯 78,899世帯 (+122) 8月1日現在

編集・発行 富士市総務部広報広聴課

〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

